

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年7月25日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300732
法人名	有限会社 祓川養魚場
事業所名	グループホーム 湧水の里
所在地	鹿児島県鹿屋市祓川町5250番地8 (電話) 0994-43-2514
自己評価作成日	令和5年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年7月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム湧水の里は雄大な高隅山と湧き水豊かな田園風景が広がる自然に恵まれた素晴らしい環境の整った場所にあります。皆様と共に過ごすホールは明るく、和室の部屋も備えてあり、ゆったり感を持った生活を心掛けております。日常生活の中では可能な限り個々の生活を見守り、体力に応じてリハビリ体操やラジオ体操、出来る活動への参加を呼び掛けております。又、歌集を開き懐かしい歌を大きな声でうたわれることも大好きです。天気の良い日には四季折々の草花を眺め散歩も楽しめます。桜が咲くころは満開の木の下で手作りのお弁当(昼食会)も開催しております。体調面においては週1回の訪問看護、利用者様、ご家族様の希望に応じ訪問診療、かかりつけ医院との連携を図り健康管理にも努めております。毎月のホーム便りでは、ご家族様とのつながりを大切にとの思いから受診内容や日々の生活風景(写真)を郵送しその人らしい笑顔と暮らし、人と人・心と心のふれあいを大切にしたいホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は山や田畑の中の自然豊かな地域に立地し、広い敷地内の同法人の有料老人ホームやデイサービスセンターに隣接している。コロナ禍のため法人内の交流は控えているが、避難訓練への応援体制や法人内の協力体制が築かれている。
- ・管理者及び職員は、利用者が一人ひとりの力を活かして、得意の保存食づくりや洗濯物たたみなどを行っている。当事業所でこれまでと同様の穏やかな生活が送れるよう、本人ができない部分への支援を主眼に取り組んでいる。
- ・コロナ禍のため家族の面会が制限されているが、毎月写真を添えた「湧水の里便り」を送付して近況報告を行い利用者と家族の関係が途切れないように取り組んでいる。
- ・代表者や管理者は、職員の資格取得や研修受講を支援し質の向上を図るとともに、休暇取得を始めとする働きやすい就業環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「明るく豊かな人と人・心と心のふれあい」「地域と共に」を基本理念とし、朝の申し送りの後に唱和し、日常のケアの実践に取り組んでいる。	理念はホールに掲示し、パンフレットにも掲載している。毎朝申し送り時に唱和して理念を確認し、理念に沿ったケアを実践しているか振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、コロナ禍であり清掃活動のみ参加している。地域とのつながりである交流は厳しい状況であったがコロナ感染状況がある程度納まり3月に地域の方々による芸能祭り「棒踊り」の見学で交流を深めることができた。	コロナ禍のため地域の清掃活動のみ参加していたが、今年の3月には町内会行事の祓川棒踊りに来てもらって見物できた。8月踊りへの参加等、今後、感染状況を見ながら地域との交流を再開していく予定である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議等が開催できた月はホームの方々の様子を説明し疑問に思われている事への質問も受け、質問に対して説明、理解・支援方法についてお話ししている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、運営推進会議が開催できない事もあった。今後、感染状況を見極めながら、前町内会長をはじめ消防副分団長・利用者・ご家族様の参加を頂き、サービスの実施状況を報告。疑問に思われた事等、色々な意見交換の場となりサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しているが、3回は書面開催としている。コロナ感染症や災害対策等についての意見交換を行い、事業所の取り組みを紹介するとともに、意見をサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議が開催された月は市担当者の方への参加も頂き、利用者やご家族、職員へのお知らせや要望・助言等をいただきながら活動状況も報告できている。会議が開催されない状況下では関係書類を市窓口へ提出し、連携・協力関係も築けている。	市の担当者とは、運営推進会議での意見交換や日頃から窓口に出向いて報告や相談を行っており、コロナ感染症発生時にも連携を図って対処できた。生活保護担当者とは来訪時の意見交換等で協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会を定期的に行っており、身体拘束による被害も全職員は理解している。ベッドからの転落事故の危険性のある方へはセンサーマット対応、身体拘束をしない工夫、転落防止・安全で行動制限のない生活支援に取り組んでいる。	指針を作成しており、委員会は毎月開催している。研修は年4回実施し、身体拘束への理解を深めており、不適切な言葉は代表者や管理者から注意を促している。外出希望の利用者には職員が付き添うなど、行動を制限せず安全に配慮した支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は毎月のスタッフ勉強会の中において高齢者虐待防止法について学ぶ機会を多く持ち事業者内での虐待が絶対に起こらないようチームケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度、権利擁護についても学ぶ機会をもちホーム内の勉強会を通してレポート提出も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用契約時に管理者による重要事項説明があり、その中において利用者側からの不安や疑問点をお聞きし、質問に対しては分かりやすく十分な説明を行い理解・納得が得られてから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方々は意見要望を上手く伝えられないが、日々接している中において、職員は感じ取れる部分も多い。家族等意見についてはその都度お聞きしたり、面会時、気軽に相談を頂き、職員間で改善に向けて話し合いの場を設け、より質の高いサービスに努めている。	利用者には日々のかかわりの中で思いを聞いている。家族には面会や訪問時に要望等を聞いている。居室での面会希望に対してはコロナの感染症状況からの制限であることを理解してもらっているが、本人・家族の状況を考慮して柔軟に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送りや毎月の職員会議に代表者も参加し意見や提案を聞く機会を設けている。色々な意見や提案を参考とし、より良いホーム作りに反映させている。	毎月職員会議やケア会議で職員の意見を聞く機会を設けており、ケアに関する意見が良く出ている。ケアに関する提案については取り入れて様子を見る等、統一したケアの実施に反映させている。個別相談は管理者が対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場環境作りを良くしながら、各自が向上心を持って働きやすい雰囲気作りに心掛けている。また、スタッフ一人ひとりの個性を理解しあえる環境にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月1回の勉強会/内部研修会も行っている。コロナ禍でもあり、外部研修はオンラインにて全員参加。6月には医療法人から外部講師を招き勉強会を開催する予定である。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍であり外部との接触機会は難しい状況であったがネットワーク作りを行い地域の同業者との研修の場、勉強会等交流する機会を得られた。活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちに寄り添い、本人様の思いを傾聴しながら、少しずつホームでの生活に慣れていただけるよう声掛けや温かな表情で接している。また散歩をしながら手をつなぎ、会話を楽しみ笑いの多い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にお会いし、困っている事や不安な事・要望等を詳しく尋ねメモしておく。不安な気持ちに寄り添い、誠意を持って対応していけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約をしに来られた際は管理者と計画作成者がご家族様に懇切丁寧に対応している。又、ご家族様の必要としている支援を見極め十分に話し合い、本人に必要としているサービスを利用されておられる方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしている中において料理の下準備や味利き、又、本人に負担のない範囲で色々なお手伝いをして頂いている。(生活リハ)スタッフと一緒にいる事で会話も弾み、楽しい雰囲気の中で家族のような関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を理解した上でどうしても難しい状態・状況が見られた時にはご家族様に相談し共に本人を支えていく関係を築き、それぞれの思いを大切に出来るよう努めている。電話でのお話しも支援出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、ご家族様との面会も難しい中、電話での会話・又、換気を十分に行い、マスク、消毒・体温を計測し2～3Mの距離で短時間会話を楽しまれている。コロナ発症状況に応じ面会は差し控えて頂いているがホーム近くのお墓参りや今まで生活していた地域へのドライブ支援も行っている。	家族の面会も制限されているが、距離を取ったり電話を使っての面会を支援している。毎月「湧水の里便り」に写真を添えて近況報告を行ったり、家族との墓参りや自宅付近へのドライブも行い、これまでの関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格や好みなどを把握し会話が弾み笑いが多く聞かれている。また、上手くコミュニケーションがとれない方には職員や利用者様が間に入り話に参加できるように支えあえるような支援を行っている。又、難聴の方、目の見えない方への支えも十分に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にはお礼のハガキを頂いたり、電話がきたり、又、母が使用していた物ですが使って下さればと福祉用具、衣類、季節ごとのお野菜も沢山持ってきてくださった。懐かしい思い出を振り返り、ご家族様の寂しい気持ちに寄り添うことも出来た。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ゆっくりと本人に向き合い、思いや希望・意向をくみ取れるように努めている。本人からの思いを上手く聴き取れない場合には家族、職員間で情報を共有し、本人の思いや暮らしに添えるように努めている。	日常の暮らしの中でたくさん話しかけて、本人の思いを引き出せるようにしている。言葉等の表出が困難な場合は、これまでの生活等についての家族の情報を参考に、思いをくみ取るように努め支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴を伺って介護サービス利用の参考にさせて頂いている。また、生活の流れの中でご家族様や職員との気付き、話し合いにおいて経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあった心身状態を把握し個性を大切にしながら、残されている家事能力を引き出し、実生活、日々の生活に喜びが見出せるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の介護日誌・介護サービス内容のモニタリング（月1回スタッフ）し、その結果をケア会議で話し合い、本人・ご家族様からの意見や気付き、要望・アイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の思いや家族の希望等を基に、ケア会議で職員の意見を聞いて介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回、6ヶ月毎及び状況変化時に計画を見直し、現状に合った計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録で残す事の大切さは職員一同認識しており、その記録は個々にされている。朝、夕の申し送りや記録を読み合う事で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・その時々生まれたニーズに対応出来るよう話し合える時間を設けている 気づきや要望に応じ出来る範囲を見極めながら取り組んでいる		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団の方々の協力を得ながら火災訓練も行い、安心・安全の穏やかな生活を支援出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医の受診や訪問看護を利用いただいている。主治医とは入居者様の現状やホームでの様子を報告し信頼関係も築き適切な医療を受けられるよう支援している。本人・ご家族様の希望により月2回の訪問診療を受けておられる方もいる。	契約時に確認し、かかりつけ医の継続を支援している。受診は家族の協力も得て対応し、訪問診療を月2回受けている利用者もある。週1回訪問看護の健康チェックもあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきをスタッフと話し合いその結果を報告書にまとめ定期受診時に担当医の先生へ報告し指導を受けている。また週1回の訪問看護利用の際は病院受診結果やホームでの様子を詳しく説明し指導・助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の基本情報をお渡しする。基本情報等でわかりにくい情報は医療機関より電話が入り情報交換の共有に努めた。退院に向けてはご家族様やソーシャルワーカー・担当医との間に入り指導・助言を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については本人・ご家族様を交えて説明は行っている。状態の変化においては訪問看護を利用し主治医と連携をとり、事業所でできる支援の方針を共有し共に取り組んでいる。（終末ケアにおいて急変時の対応も皆で共有している）	契約時に重度化等の場合の対応について、選択肢も含めて指針で説明している。重度化の場合、医師から家族への説明に管理者が同席し、家族の意向を確認して同意書ももらっている。家族の意向に沿った支援にチームで取り組んでおり、看取り介護の事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えてマニュアルにそった勉強会も行なっている。応急手当や初期対応の方法を定期的に話し合い、実践力の向上に努めている。また救急隊への情報提供カードも半年ごとに作成している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策における勉強会や年2回の火災避難訓練（中央消防署や地域の方々の協力）の下、行っている。又、今回も、地震・水害訓練も利用者の出来る範囲内で実施。災害時には近隣住民法人内の協力連絡網もあり協力体制も築いている。</p>	<p>年2回の避難訓練を夜間想定で実施し、1回は消防署の立ち合いがある。訓練には隣接の系列有料老人ホーム職員の参加協力もあり、消防団等の近隣住民の協力体制を築いている。非常用の備蓄は、3日分の水・レトルト食品・インスタントラーメン等の食料、及びカセットコンロ・ラジオを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの誇りや尊厳を大切に言葉の持つ意味の大切さを十分に考慮している。職員は人格の尊重に配慮した言葉かけや笑顔での対応を常に心がけている。</p>	<p>年間計画で研修を実施し、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように、「自分にされて嫌なことはしない」ケアに取り組んでいる。特に排泄失敗時の声掛けは羞恥心に配慮している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>病状の進行と共に少しずつ、本人の思いや希望を表わせ無くなるが、出来るだけ分かりやすい言葉でゆっくりと話し掛け、本人の意思・思いを確認しながら自己決定の出来るような支援を行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースに合わせて柔軟な対応が出来るように介護計画を作成している。一人ひとりに合った時間や暮らしを提供し本人の希望に沿っての支援を心掛けている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>身ざれいに生活していただくように心がけている。ホーム内や病院受診時・外出時などにはその人らしいお洒落を支援し衣類の乱れがないよう気遣っている。時にはスカーフ、おしゃれな帽子で・・・とお声もかけ支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、目で見て「美味しそう」食べてみて「おいしいよ」と言って頂けるように盛り付けにも努力しております。一人ひとりの食事形態に合わせて提供し季節の野菜（つわやゴーヤ・その他）スタッフと一緒に下準備をし食卓に上がります。出来る準備や片付けを無理の無い範囲でスタッフと一緒にやっている。	職員が調理し個々に応じた食事形態で提供しており、利用者もそれぞれの力を活かして一緒に下ごしらえや保存食づくりをしている。誕生日の好物や行事食の提供、桜の下の食事会等、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量のチェックをその都度行い一日を通して確保できているかの確認を行っている。またお茶を拒まれる方にはジュース・ポカリ等も提供し水分確保に努めている。時間に関係なくこまめに提供。中には甘い味を好まれる方がおられる。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェックも毎回行っている。毎食後の義歯洗浄に加えお一人様は液体歯磨き、夕食後はポリデント洗浄も毎回行っている。認知症の人に多く見られる口腔内の疾患についても学び清潔保持の重要性も理解できている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつ使用を減らす意味においては一人ひとりの排泄パターンを把握したり、時間での誘導、排泄チェック表での確認等で自立に向けての支援を行っている。	把握している排泄パターンや本人の仕草等で声掛け・誘導を行って、昼夜共トイレでの排泄を基本に支援しており、排泄の自立や布パンツ使用を維持している利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・排尿チェック表を基に早め早めの対応に心がけている。食べ物（繊維の多い食材）芋・果物・ヨーグルト等の提供。又、腹部マッサージも行っている、水分も多めに摂取どうしてもダメな場合は排泄を促す暖下剤を服薬して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を好まれる方は多いが、本人の意志や体調を考慮して行っている。認知度が進むにつれて声掛けや、時間のタイミングが重要となっている。個々に応じた入浴を支援している。	週3回午後に入浴を実施し、時間は柔軟に対応している。希望でシャワー浴や必要に応じて2人介助も実施し、気持ちよく安全に入浴してもらえよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握しその時々状態・状況に応じて対応している。一日を通して安心して気持ちよく眠れるよう言葉かけの工夫や散歩（日差しを浴びる）事も考慮しながら支援している。時には手を添えて心の安定を支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は確実にスタッフがやっている（読み上げ確認）定期薬の変更や追加薬については受診記録紙や薬局からの説明書を個人ファイルに閉じてスタッフ全員が把握・理解できるようにしている。その後の症状の変化についても観察確認行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事への喜びや楽しみを味わって頂きたく、タオル干しや洗濯物たたみ日付や曜日確認チェック（役割支援）もやしの根切りや季節ごとの料理の下準備（生活リハ）スタッフと共に行う事で喜びや楽しみ、気分転換ができ、笑いの多い日々を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍であり、外出支援は難しい状況ではあったが、霧島ヶ丘公園までのドライブ、(季節ごとに咲く花々の観賞) 鹿屋市内をドライブ(途中のお店で回転まんじゅうを購入) イチゴ畑の見学・ホームの周辺での散歩等、季節ごとに咲く花を眺めながら屋外での昼食会も支援している。	天候の良い日は毎日近隣の散歩をしている。外出はコロナ禍のため控えているが、季節毎の花見ドライブや受診支援時に遠回りして車窓からのドライブを楽しんでいる。家族と近くの墓参りや受診で外出する利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様より、お金の所持を希望され、本人・ご家族・スタッフとの話し合いの上、金額を決めて持たれています。お金を持つことで安心や希望につなげ、定期受診の帰り(売店)や外出時にジュースやお菓子を購入して頂く支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族様から電話が入った時には、必要に応じ、本人と代わり会話を楽しまれる。ご家族様の声を聴くことで安心され、元気をもらい表情も明るくなる。電話を希望される方への支援もおこなっている。又、受診記録紙で病状の報告、湧水便りでホームでの様子等も見ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールは、季節を感じられる貼り絵や散歩の途中で摘んで来た草花を生け、明るい雰囲気、穏やかに過ごして頂いている。時間に応じては懐かしい音楽(演歌や童謡)を聴かれ居心地の良い環境づくりに取り組んでいる。	ホールはエアコンで室温等を適度に調節し、窓を開けて換気も十分行っており、季節を感じてもらえるよう作品や花を飾っている。ホールのソファや玄関前に置いたベンチ等、利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	和室にあるソファでゆっくり過ごされる人、自室にて過ごされる人、それぞれに好きな居場所がある。気の合った利用者同士でテレビを見たり、お話をしたりと日々穏やかに過ごされている		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	それぞれの部屋には思いでの写真や・置物等があったり、テレビをお持ちの方はゆっくりと自分の好きな番組を観たりと居心地良く過ごせるような空間が出来ている。	居室にはベッドや床頭台・押し入れ・エアコンが備えてあり、本人が使い慣れたテレビや寝具を持ち込んだり、身の回りの時計や写真・遺影・ぬいぐるみ・化粧品を置いて安心して過ごせるような部屋にしている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	施設内は全面バリアフリーになっており、廊下は手すりがくまなく設置されている。利用者が安全に可能な限り自立した生活が送れるような環境整備に努めている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない